

# 成長 第5号

令和3年 9月 1日（水）発行

## 《“怠け心”と戦うということ》～『神さまに好かれる話』小林正親～

ある有名な禅宗の寺で三泊四日の「座禅体験会」があり、私の友人が参加しました。

座禅体験会の感想はそれなりに興味深いものだったのですが、私が最も興味を持ったのは次のようなことでした。

そのときは10人ほどの参加者だったそうですが、解散のとき、数人の若手雲水(修行僧)が「何か質問があれば、どうぞ」と、質疑応答がありました。

いくつかの質問のあと、中年の女性が、「一番辛い修行は何ですか」と尋ねました。数人の雲水は互いに顔を見合っていたそうですが、「私が答えてよろしいですか」と、一人の雲水が進み出ました。

「他の方はわかりませんが、私自身のことでお話しします。ここは冬はとても厳しい寒さで、冬の朝の寒さはとてもこたえます。当番で朝の鐘を撞(つ)くとき、もちろん素足で足袋はありませんし、日も昇っていません。一回撞くごとに石の上に座り、礼拝します。肉体的にはこれが一番でしょうか。でも本当に辛いのはそんなことではありません」

参加者は皆、身を乗り出したそうです。

「私たち修行僧には、掃除の担当が決められていて、ある人はこの廊下、ある人はこのお堂というように、割り当てられています。しかし、その掃除を見に来る人、チェックしに来る人はいないんです。その廊下はまる一日使われないこともあるし、誰が見ても綺麗で、今日掃除をしなくても、誰にもわからない。つまり、さぼって手を抜いてもいいわけです。掃除をしないことが上司や先輩にわかったとしても、誰も何も言いません。怠けてもかまわない。そういうときの“怠け心”と戦うことが、私にとっては一番辛いことです。誰かが管理し、見に来る、チェックしに来る、怒鳴ってくれる、というシステムのほうが、ずっと楽なんです。人が見ていなくても“仏さま”は見ています。この心の葛藤、自分との戦いが、自分にとっては最も辛い修行です」

私はこの話を聞いて、「その雲水はすごい人だ」とうなってしまうしました。多分、本音だったに違いありません。それを「最も辛い」と認識していること、その分析の見事さに加えて、人前で(しかも仲間の雲水もいるところで)そんなことが話せること。

それは、“僧”としてのテーマを自分なりに強く認識しているということでもあるからです。

～『神さまに好かれる話』小林正親～

人は日々の生活の中で、どうしても自分に甘くなってしまいます。少しでもこの雲水さんの考えが実践できるように努力したいですね。

そのためには、毎日を漠然とすごすのではなく、一つ一つテーマを持って生活をするのが大切ということです。

## 《善と悪》

この世の中には善と悪が渦巻いています。しかし、何が「善」で何が「悪」なのでしょう？時代や環境によって善と悪の境界は変化します。それは疑いのない事実です。人を傷つけたり殺したりすることはいかなる状況でも許されないはずですが。しかしこの定義も、たとえば戦争中ではどうでしょうか？180度考えは変わってしまうでしょう。そして皮肉なことに人類の発展を考えた時、「戦争は必要悪だ」という考えもあります。

私たちは、何らかの使命を帯びてこの世に命を授かると言います。そう、私たちは「生きている」のではなく「生かされている」のです。私たちが「自分の命」と思っているものも「生かされている」と考えれば、実のところ決して、自分だけのものではないのです。自殺は「自らを殺す」と書きます。まさにその点では、他人の命も自分の命も同じく「命」なのです。そう考えると、植物や動物も含め、命を思い通りにしようとする人間の行為は、神に逆らうものなのでしょう。

あらゆる命を大切に思い、それぞれの命をしっかりと燃やす。それが、我々に与えられた大きな使命なのでしょう。

最後に一言、「吾唯知足(われただたるをしる)」

文責：原

## 9月の行事予定

1	水	始業式・身だしなみ指導	22	水	体育大会(午前) 文化祭準備(午後)
2	木	執行部合同会	24	金	文化祭準備
3	金	常任委員会	25	土	文化祭
6	月	身だしなみ指導(再)	26	日	全商情報処理検定
17	金	防災訓練	27	月	全校朝礼
21	火	体育大会準備	30	木	執行部合同会

次号発行予定は10月4日(月)です。お楽しみに！